

経営比較分析表（令和6年度決算）

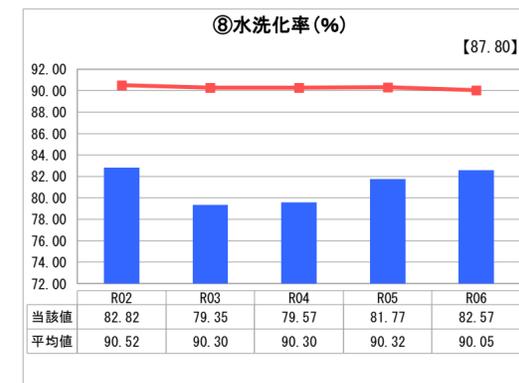
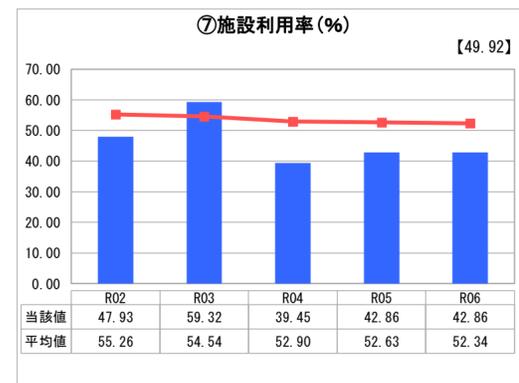
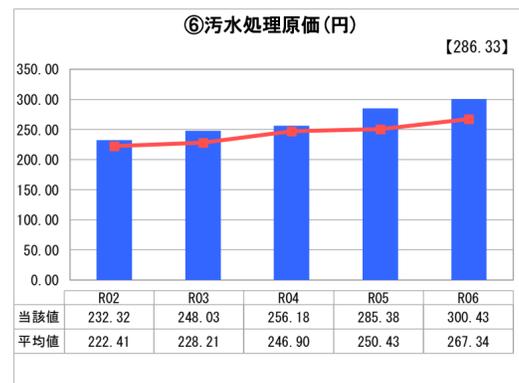
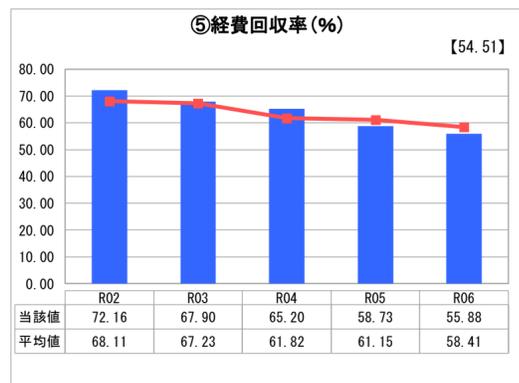
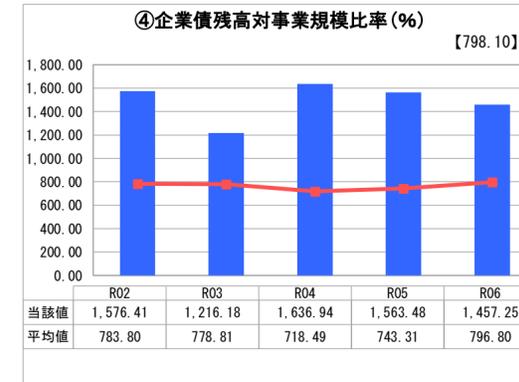
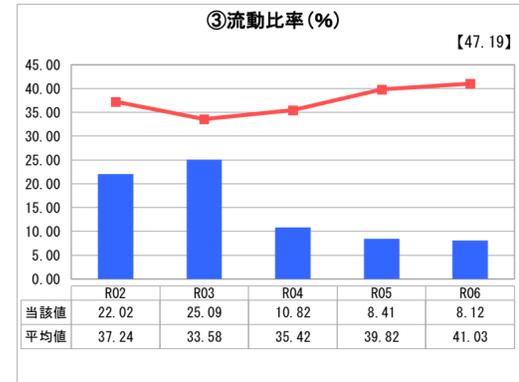
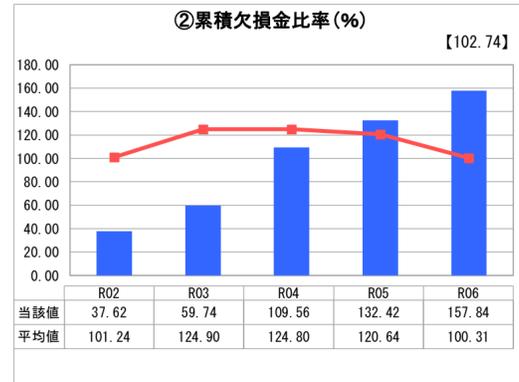
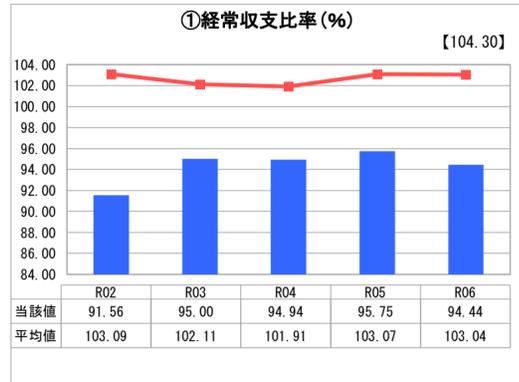
岐阜県 海津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	78.51	7.34	85.82	3,520

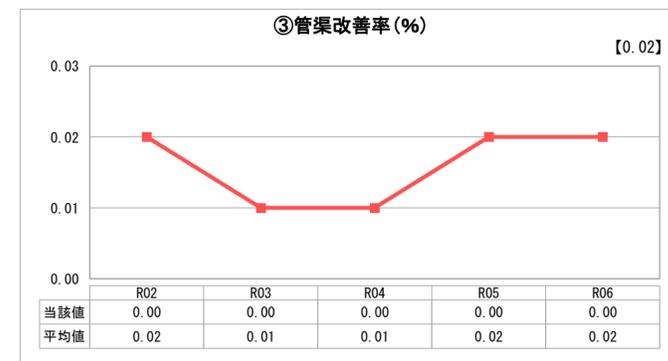
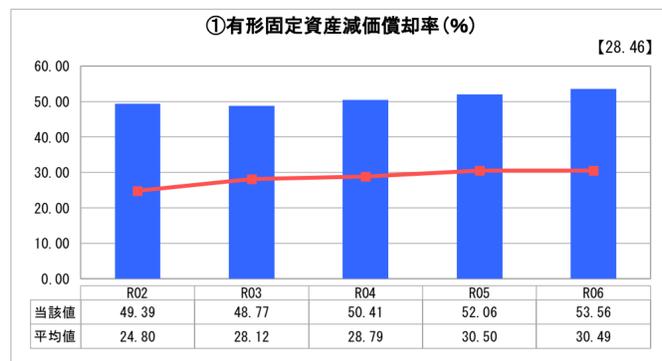
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,505	112.03	281.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,295	4.46	514.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び経費回収率が100%を下回り、欠損金も生じていることから、一般会計繰入金に依存せざるを得ない厳しい状況である。
人口減少や節水意識の高揚による使用料収入の減少、接続にかかる経済的負担などの要因により水洗化率が伸び悩み、経費回収率、施設利用率も低下傾向にある。一方、本市は地理的要因により多くのマンホールポンプが存在し、管渠の範囲も広範囲に広がっているため、類似団体と比べて維持管理や修繕等の経費が多くなる傾向にある。
流動比率が低い水準にあり企業債残高対事業規模比率が高いが、令和3年度に元金償還額のピークを迎え、今後逡減していく見込みとなっている。しかしながら、企業債の発行額に注意しながら事業を進めていく必要がある。
令和3年度に企業債残高対事業規模比率が減少（前年度比△360.23）、施設利用率が増加（前年度比+11.39）、水洗化率が減少（前年度比△3.47）したのは、令和3年度末に農業集落排水 高田・西島地区を特定環境保全公共下水道事業 今尾処理区へ統合し、該当分の企業債残高、施設処理能力、水洗化人口等を振り替えたためである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は53.56%となっており、将来の更新等に備え、更新時期の平準化の検討や施設の長寿命化を計画的に進めていく必要がある。
管渠は昭和60年より施工を開始し、供用開始は平成2年以降であり、現状では更新等の予定はないが、最適整備構想の見直しを図り、必要に応じて管渠更生等を行う予定である。
浄化センター施設においては、農業集落排水施設機能強化事業により更新工事を実施しているが、最適整備構想に基づき、計画的に更新工事を行う予定である。
令和3年度に有形固定資産減価償却率が減少（前年度比△0.62）したのは、令和3年度末に農業集落排水 高田・西島地区を特定環境保全公共下水道事業 今尾処理区へ統合し、該当分の有形固定資産等を振り替えたためである。

全体総括

現時点で経営の効率性、財務の健全性は高い状態とは言えない。そのため、包括的民間委託の業務拡大や更新工事等の平準化により、更なる経費節減を図るとともに、未接続世帯への普及活動を強化し、水洗化率の向上に努めていく必要がある。
海津市汚水処理施設整備構想に基づき、令和3年度末に農業集落排水 高田・西島地区を特定環境保全公共下水道事業 今尾処理区へ統合しており、今後も、必要に応じて処理場の統合について検討を行っていく。また、下水道使用料の最適化について検討し、近い将来に使用料単価の改定を行うなど、経営戦略に基づき健全な事業運営を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。